

インターバンクの声（2014年12月12日）

昨日の東京市場の朝、ドル円が117円50銭を割り込んでいた時に市場から聞こえた声は、「上値は重い」「ドルが買い戻されても118円台後半がせいぜい」などを中心に円の買戻しバイアスが掛り続けているとの見方が優勢だった。確かにアジア時間では、118円台に乗せてもすぐに117円台に戻ってしまう展開が繰り返され、ロンドン市場に入って118円台後半までドル買いを進めた場面でも、ニューヨーク勢の参入前にドルを売り戻してしまった。この118円台の膠着感を打ち崩したのが、ニューヨーク市場入りしてからの大幅な伸び率となった11月米小売上高の発表。ここ数日、中国の経済指標の鈍化やギリシャの財政緊縮による政局不安、はたまたあれだけ好材料とされていた原油価格の下落が一転して世界経済の先行き不安に繋がる見方などを背景にしたネガティブ反応が、良好な米経済指標によって若干ポジティブ側に戻ったようだ。完全に相場つきが元に戻るかどうかは、今週末の日本の総選挙結果や来週半ばの米連邦公開市場委員会（FOMC）の結果を見てからになりそうだが、この時期にもう一つ気を付けなければならないのが、日ごとに強まる流動性の減少だ。

提供：SBIリクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。